



## 日本は、どの国から最も多く魚を輸入しているの

### 中国からの輸入が第1位(1996年)

1996年の水産物輸入数量は345万トン、輸入額は1兆9138億円でした。おもな輸入元は、中国、アメリカ、インドネシア、タイ、ロシアなどです。おもな輸入品目は、魚粉、マグロ・カジキ類、エビ類、サケ・マス類となっています。

水産物輸入元別金額をみると、中国(2370億円)、アメリカ(2320億円)、インドネシア(1360億円)、タイ(1350億円)、ロシア(1350億円)、韓国(1340億円)、台湾(1120億円)でした。

また、水産物主要品目別輸入量をみると、魚粉(408万トン)、マグロ・カジキ類(309万トン)、エビ類(305万トン)、サケ・マス類(232万トン)、タラ類(185万トン)、カニ類(130万トン)、イカ類(108万トン)、タコ類(96万トン)でした。

### 魚介類は日本国民への動物性たんぱく質の供給源

日本人は、よく魚を食べる国民として知られています。国民一人1日あたりの魚介類による動物性たんぱく質の供給量は、19.1グラムです。魚介類は、国民への動物性たんぱく質供給量の4割をしめていて、国民への動物性たんぱく質の最大の供給源になっています。

日本は、世界有数の水産国ですが、国民が食べる量をまかないきれず、世界各国から大量に輸入しています。食用魚介類の自給率は、58パーセントです。つまり、半分近くを輸入に頼っているわけです。(監修・保岡 孝之)

